



題字 廉隅 進

手白小屋事故顛末記

BN 865 高田 昌也

「ちよっと待った」という悲鳴とともにモミの太木は小屋を目がけて倒れていった。だれもが想像できなかった結末を目の当たりにして「アーツ」という叫んだ後、声が出なかった。六月一日、先輩たちが力を尽くして建て、現役、OBが守ってきた奥鬼怒山荘の屋根に太木が倒れ、一階の広間が使用不可能になった。五十年以上の小屋の歴史で初めての事故を目撃した者として報告する。

◇

五月三十一日に小屋入りしたのは、諏訪本監督以下OB、現役に加えて、丹沢で林業を営む前田OB（BN106）と社員一人。前田OBらは、三十一日から精力的に下準備に取り掛かっていた。今回倒すのは水場近くのブナと小屋裏に不気味に立ち尽くすモミの太木の二本。両方とも幹回り二・五m、全高三十mを超える。強風などで倒れれば、小

第 60 号

明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部
なため会 会報

屋を直撃する恐れのある危険木だ。太木を倒す方向にあるカエデやブナなどをチェーンソーで切り倒していく。そのカエデやブナも樹齢は少なくとも数十年が経過した高木である。

翌六月一日、水場近くのブナから取り掛かる。かか

とに鋭い刃のついた特殊な器具を足に取り付け、十五m近い高さまで刃を幹に刺しながら登り、ワイヤーをかける。そのワイヤーを倒す方向からけん引具で引っ張り、ピンと張る。同時に倒す方向の根元にチェーンソーでくさび状に切り込みを入れ受け口をつくる。反対側から受け口に向けて水平にチェーンソーで追いつき口を入れる。けん引具をキリキリと回し、引っ張る。けん引具が回らなくなると、追いつき口を1cm、2cmと小刻みに入れる。またキリキリと引っ張る。それを何度も繰り返すと耐えきれなくなった幹から「ピキッ」と泣き声が聞こえる。「ピキビキッ」と木肌が裂け、スローモーションに傾き始める。ブナは想定通りの方向にきつちりと倒れた。

休憩を挟み、幹回り二・八mのモミの太木に挑む。前田OBたちはブナよりも時間をかけ、倒す方向を確認する。ワイヤーをかけ、けん引具でピンと張る。受け口を入れる。追いつき口を入れる。同じ手順を踏み、キリキリとけん引具を回す。「ピキッ。ピキッ」と泣き

だす。

そして冒頭のシーンを迎えることになった。

◇

モミは根を露わにしてひっくり返っていた。切り口を見ると、幹の中の半分は朽ち、空洞化が進んでいた。根も幹も自分の重さに耐えきれず、想定外の方向に倒れてしまったようだ。今回作業をしないで、台風で倒れたら、小屋の屋根の中央部を直撃し、再建不可能な被害となることは容易に想像できた。

また、幸いなことにけが人が一人も出なかった。倒れたときには、倒れるシーンを見ようと小屋内に誰もいなかった。倒れる直前に小屋に着いた後発組の現役部員らが小屋玄関前にいたのを諏訪本監督が「反対側に回れ」と指示した。指示がなければ、モミの直撃を受け、大惨事になるところだった。

モミは一階広間の山側の屋根を3mにわたってぶち抜いた。梁の一部が折れ、垂れ下がっていた。広間とストープの間の壁も歪んでいた。修理には相当の作業が予想された。

◇

数え切れないほど細かく年輪を重ね、何百年も前から存在した木を倒すということは、神の域に足を踏み入れる所業である。諏訪本監督は倒す木に酒を献げ、お祓いを欠かさなかった。それでも神の怒りに触れたのだ。ただ、小屋を修理することは赦され、立派に再建された。これからは山の神の怒りに触れぬよう大切に小屋を守っていききたい。

運営委員選任にあたり自己紹介

BN 1216 川澄 剛史

この度、運営委員会に選任頂きました川澄剛史です。卒業年度は、平成18年度と卒業から13年あまり経ちますが、その間、勤め先がメーカーの営業職という宿命からか、転勤が多く、名古屋、茨城と渡り歩き、現在は東京勤務となっております。卒業後は全くワンダーフォーゲル部に関わる機会がなかったのですが、なぜ急に、この様な形でなため会に運営委員として携わらせて頂くことになったのか、今回、その経緯を簡単にご紹介したいと思います。

遡ること19年9月のある日、一通のショートメールを貰いました。OBの上原先輩からです。内容は、今度の三連休に手白小屋で歩荷があるので来てくれないか、という至ってシンプルなものでした。最初は何のことだかよくわからず、急な予定でしたので、正直迷いました。三連休の初日は会社のゴルフの予定が入っていましたし、残りの二日間についても家族サービスを反故にするわけにはいかない：

しかしながら、上原先輩から今度はLINEで写真が送られて来ました。その写真は衝撃的なものでした。そうです、手白小屋が倒木で崩壊している写真です。これは放って置けないと、仮にも現役の時手白小屋係をしていたということから、そういう思いもあり、

手白小屋修復のための資材搬入の歩荷に即座に参加の意を固めました。

9月22日。どうしても三連休初日の予定は動かせなかったもので、二日目から参加することになりましたが、上原先輩や他の先輩方々も二日目から歩荷に参加するということで、半分心強い反面、もう半分は久しぶりにOBの方々に会うということで緊張と不安が入り混じっていました。

卒業してから、山はほぼ登っていなかったのですが、キャンプなどアウトドア趣味は続けていた為、装備は一応そろえられたのですが、なにぶんブランクが長く、最初の明太テラスまでの道のりは非常に長く感じられ、また現役の時にはなかった傾斜のキツさを感じました。

歩荷自体は、色々と現役当時のことを思い出したり、小屋の細部や手白澤温泉からのルートなど自分の記憶と答え合わせするような感覚で、ある意味、楽しみながら作業をしていました。そして、歩荷はOBの総力

で予定よりも早く完了しました。

その後は、焚火を囲み夕食をとり、お酒も入り、久しぶりのOBの方々と、とても楽しく歓談をさせて頂きました。

さてそんな中、無事一日も終わると思いきや、ふと諏訪本監督から「運営委員をやらないか？」と、不意打ちの一言。その時の私は、そもそも運営委員が何かも分からなかったのですが、たまたま異動で東京に戻ってきたタイミングで、今日この歩荷に参加したことは運命だと思い、また現役の時に育ててくださったワンゲルへの恩返しという思いから二つ返事でOKをしました。

だいぶブランクがありますが、現役やOB、部のために微力ながら尽力させて頂きますので、今後とも宜しくお願い致します。



ポッカで新助沢を渡渉

2019年度 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 なため会 幹事会・忘年会

■日時 2019年12月14日(土) 12時30分～14時30分 ■場所 リバティタワー23F

◆式次第

●幹事会

12:30 開会

一、幹事長挨拶

猪狩幹事長

一、議事

第一号議案

2019年度 組織変更(案) 猪狩幹事長 承認

第二号議案

2019年度 事業進捗報告 猪狩幹事長 承認

第三号議案

奥鬼怒山荘事故、修繕報告 諏訪本監督 承認

一、閉会



●忘年会

13:00 開会

一、会長挨拶

一、乾杯

一、歓談 くじ大会

一、部歌斉唱

一、校歌斉唱

一、写真撮影

14:30 お開き



猪狩幹事長より報告



くじ引き大会の賞品授与

◆出席者：48名(会員39名、学生9名)

●会員：39名

228 島林 順三	299 大内 善一	345 吉田 修	392 内田 吉成	393 植木 正子	398 小林 伸行
451 山田 祥二	455 飯村 朋園	487 鈴木 康弘	489 野村 司	501 前田 芳弘	505 椎橋 稔
527 池田 陽一	530 磯崎 守弘	532 鈴木 正彦	538 佐藤 寛	558 奥倉 勇一	610 石田 正
614 石井 克太	661 大賀 徹雄	705 杉山 裕	714 南出 進	717 住田 孔一	728 横尾 廣志
751 諏訪本充弘	764 高橋 寿子	775 小田野義之	788 原田 博文	792 柳川 俊泰	817 和賀井英雄
835 猪狩 稔	871 平田 正博	879 井上 稔也	897 山下 仁志	915 日暮 浩美	1064 井上 堅一
1075 清水 晴日	1115 上原 誠	2120 鈴木 元典			

●学生：9名

主将 小野 剛志	主務 梅野 航	4年 杉本 雪乃	4年 小林 亮太	4年 岡田 茜	4年 家子 貴暁
4年 尾島 佐和	4年 手島 寛人	2年 井上 遼大			



2019年度 明治大学体育会ワンダーフォーゲル部 なため会 組織

会 員 総 会

幹 事 会

■顧問	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)	長峰 章(1000)	
■部長	高橋 信勝(1200)			
■相談役	新村 貞男(181)	小林 碧(197)	島林 順三(228)	篠崎 徳量(241)
	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	足立 康弘(339)	吉田 修(345)
	内田 吉成(392)	紀伊辰之助(423)	天野 俣明(477)	鈴木 正彦(532)

運 営 委 員 会

■役 員	会 長	大賀 徹雄(661)		
	副会長	住田 孔一(717)		
	幹事長	猪狩 稔(835)		
	副幹事長	日暮 浩美(915)		
	監 事	石田 正(610)	横尾 廣志(728)	
	駿台体育会理事	諏訪本充弘(751)	和賀井英雄(817)	
	参 与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)
	監 督	諏訪本充弘(751)		
	コーチ	井上 堅一(1064)	岩田 卓也(1265)	浜口小百合(1273)
		諏訪部貴亮(1282)	由水 雅也(1306)	
■部 会	総務部	(部長) 小田野義之(775)	(副) 原田 博文(788)	日暮 浩美(915)
	財務部	(部長) 柳川 俊泰(792)	(副) 上原 誠(1115)	
	広報推進部	(部長) 井上 稔也(879)	(副) 住田 孔一(717)	(副) 加藤 章一(845)
		鈴木 康弘(487)	一色 雅男(570)	石井 克太(614)
	企画振興部	(部長) 丸山 貞二(859)	(副) 山下 仁志(897)	龍 君江(838)
		平田 正博(871)	井上 堅一(1064)	
	山小屋管理部	(部長) 杉山 裕(705)	(副) 植木 進(846)	山口 直樹(1017)
	事業運営部	(部長) 猪狩 稔(835)	(副) 山下 仁志(897)	
■運営委員	前田 芳弘(501)	池田 陽一(527)	石井 克太(614)	野島 一雄(676)
	龍 君江(838)	平田 正博(871)	高田 昌也(865)	清水 晴日(1075)
	加藤 嘉寛(1107)	川澄 剛史(1216)		

上記以外の幹事

<組織変更案 詳細>

幹事会 提案期日	BNO	氏 名	異動内容
2019年12月14日	1006	安部 好洋	事業運営部部長退任
//	835	猪狩 稔	事業運営部部長選任
//	897	山下 仁志	事業運営部副部長選任
//	865	高田 昌也	運営委員選任
//	1075	清水 晴日	運営委員選任
//	1107	加藤 嘉寛	運営委員選任
//	1216	川澄 剛史	運営委員選任

■オリジナル手拭について

この度、なため会重点取組の一つである「会員サービスの向上」の一環としてオリジナル手拭を会員の皆様にお送り致しました（今号に同封）。今後ともご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

幹事長 猪狩 稔

■第71回なため会ワンデルング報告 「不老山ワンデルングと世附川BBQ」

日程…2019年10月26日(土)～27日(日)
タイムスケジュール

駿河小山駅集合18:30出発19:00金時公園
11:30不老山山頂(昼食30分)12:40世附峠
14:30世附川ロッジ到着1その後希望者は中
川温泉1就寝まで宴会

今回は山に登ることにそれほど執念を持たない企画振興部のHが幹事を務めましたことで、



気持ち的にはBBQに軸足を置いた企画となりました。

筆者自身世附川ロッジには何回かお世話になっているのですが、今回は特別にBBQの食材買い出しに小田原まで行ってまいりました。小田原は駅のそばをちよと散策しただけでも安くて新鮮な海産物が豊富にありますので、今後世附川ロッジにご宿泊の際は是非小田原まで足を延ばしてあれこれと買い込んで豪華な海鮮BBQをお楽しみいただくとが宜しいかと愚考する次第です。

■2020年(令和2年)なため会W予定

回数	企画名	日時	地域
① 第72回	幻の東京五輪マラソンコース探訪	2020年2月15日	都内
② 第73回	奥鬼怒山荘泊W	2020年6月5～7日	奥日光
③ 第74回	金峰山	2020年7月18日	中央沿線
④ 第75回	伊豆のチョイ山・温泉・魚一杯	2020年10月31日	伊豆
⑤ 第76回	蓑山(美の山)	2021年2月20日	秩父

※お問合せは左記アドレスの企画振興部宛にお願いします(企画委員全員へ転送されます)。

kkaku@natamekai.org

電話の方は左記に担当者宛にお願いします。

BN 859 丸山貞一 090-8248-1303

世附川ロッジまでの道のり途中には朝取り野菜直売所や道の駅の地元産品直売所もありますので、BBQが目的でしたら家から持っていくものはビールやお酒類だけで大丈夫ですよ!

企画振興部 平田 正博

参加者

505 椎橋 稔、751 諏訪本充弘、775 小田野義之、
838 龍 君江夫妻、871 平田 正博、897 山下 仁志、
1064 井上 堅一、1106 前田 裕司、2120 鈴木 元典



昨年の第70回ワンデルング(大菩薩峠)

木場道会報告

BN 614 石井 克太

久しぶりに木場道会の旅行会が行われました。今回は宮城県石巻市に在住の亀山正人君と宮城県富谷市に在住の杉山和弘君の企画で10月16日(水)～17日(木)の2日間、郡山(会津若松)～東山温泉(泊)～喜多方のコースです。本来ですとマネージャーの和田満君も参加するはずでしたが、残念ながら5月に亡くなられたので奥さんが参加されました。他には雨宮、岩崎(旧姓：半井)、岩永(長崎在住)、粕谷、小林、田中、中山、藤浦、森川(旧姓：松尾)、山本夫妻(大分在住)、綿引、そして私の計16名のメンバーです。

初日の集合場所はJR郡山駅で、亀山・杉山・綿引君等に車を出してもらい、分乗で一路会津若松に向いました。郡山駅を出てしばらくすると台風の爪痕が残る幹線道路を走って会津若松市内に入り、昼食後戊辰戦争の中心地でもあった鶴ヶ城を見学し、その後白虎隊で有名な飯盛山に登って鶴ヶ城を眺めて感慨深いものを感じました。会津若松を後にして宿泊地である東山温泉に行き、宴会ではサブライズで岩永君のフルートの演奏があり、現役時代に戻り昔話に花が咲いていました。

2日目は喜多方に向かい、「会津びん



於：東山温泉
(後列左から) 中山幹夫 岩永 徹 綿引久男 粕谷 崇 森川(松尾)修二
田中義和 山本 忍 石井克太 小林 浩 杉山和弘
(前列左から) 亀山正人 藤浦信明 和田夫人 山本夫人 岩崎(半井)紀久代 雨宮康夫

ころり観音」で有名な弘安寺の中田観音と金塔山恵隆寺の立木観音を見ることができました。次に向かった新宮熊野神社では「長床」を見学し、一日で東北の古寺・神社を見ることができました。喜多方市内に入り、酒造りで有名な会津ほまれ酒蔵と庭園を鑑賞し、最後に「甲斐家」を見学して無事郡山に戻って来ました。翌日は綿引・松尾・岩永・亀山君

観音崎のいっ

BN 892 永井 正道

等で久しぶりにゴルフを楽しんだようです。今回の旅行を通じてクラブの絆は深いことを改めて感じ、皆さん元気が出たように思いました。

「本日の浦賀水道、晴れ。日差し暖かけれど北風強し。・・・」

このようなコメントを時折同期のグループLINEに投稿している。最初に投稿した際に秋山中将の名言

「本日天気晴朗なれども波高し」

が念頭にあり、格調高い文章を志したのであるが、いつもへんてこな文語体のようなものになっている。同期の面々は皆おらかなため、今のところ何のお咎めもない。

因みに日本海海戦の旗艦「三笠」は横須賀の海岸に保存されており、艦内を観覧できる。浦賀水道についてのコメントを載せるようになったのは、自宅から2時間程歩くと観音崎に着くためである。天気の良い休日には弁当を持って散歩に出かけ、ホテル裏のお気に入りのベンチでしばし行き交う様々な船舶を眺めている。自分の中では東京湾岸警備局横須賀方面隊員としての報告義務を果たしている感覚である。

観音崎の地名は、その昔この地の海蝕洞窟に住む大蛇が舟を襲うなどの悪さをし村人が

嘆き悲しんでいたところ、行基がこの大蛇を退治し観音様を祀ったという言い伝えに由来する。江戸時代にはかなりの賑わいであったそうだが、明治時代の陸軍砲台設置に伴い寺が移転。昭和六十一年移転先の出火により観音様は消失してしまった。その後長い間「無観音崎」であったが、令和元年九月二十三日、市民有志により新しい観音様が海蝕洞窟



令和2年元旦 観音崎から鋸山

ある。さて、どんな花を手向けよう。
観音崎には明治2年1月1日に我が国初の洋式灯台として誕生した灯台があり、横須賀市の小学生は必ず遠足で訪れている。私も初めて灯台に上ったのは小学五年生の春の遠足で、天気が良く灯台からの海の景色が素晴らしかった印象を覚えている。この文章を書くにあたり灯台に上ってみようと思い立ち、年の瀬も押し迫った土曜日に、海岸線の遊歩道から灯台への坂を登って行った。五年生の時に遠足の作文を書くことになり、担任から「表現がやや大げさであるが生き生きと書かれている。」と赤ペンでコメントを記入いただいた。「坂の頂上近くになると、足に鉛の重りを五つも六つもぶら下げたように重くなり…」などと書いていたのだからとても大げさであるが、
「豊若先生！遠暦を迎えた今の私にとって、少しも大げさではありません！」



観音崎灯台

の入り口に設置された。楠より彫り出された柔和な顔の十一面観音で、左手に花瓶をお持ちで

灯台に上ると北風が強く毛糸の帽子を飛ばされそうになるが、五十年前と同じく見事な眺望である。眼下から広がる東京湾の海面は冬の日差しに輝き、漁船、貨物船、ヨット、タンカーといった船舶が行き過ぎていく。正面には房総半島の東京湾観音が小さく見え、右手に鋸山から洲崎へと連なる山並み、左手には富津・君津の工場地帯から東京湾アクアライン、さらに左手には横浜のベイブリッジやランドマークタワーが確認できる。
「海の近くに生まれて良かった。」と改めて感じる。そう、中学時代は魚釣りに熱中し、夏休みには水中メガネと銛を携え友達と連れだって魚を追い回したりバカ貝をとったりした。夢はクルーザーかヨットを持つことであつた。

和泉校舎での大学入試結果発表の際、飯塚さんにMWVのテントに引っ張り込まれ、猪狩さんの説明を受けた私は「ヨット部に入るつもりですから・・・」と答えていたのであるが、いつの間にか入部していた。その後山の美しさや、自然の素晴らしさ、多くの先輩や友人に出会い、大切なものを沢山いただくことになった。

「ガラン沢や花沼湿原なんか、そう簡単に行けるもんじゃなよなあ。」
海もよし、山もまたよし。

「自然の中での生活を望んでいるんだろう、大切にしていかなければならないぞ。」と自分に言い聞かせている。

奥鬼怒山荘一部

損壊 最終報告書

BN.835 幹事長 猪狩 稔

2019年7月の薫風で損壊事故の概要をご報告いたしましたがその後、山荘修繕実行委員会を立ち上げ、このたび修繕支援作業が無事完了しましたので、ご報告いたします。

OB、OG 諸氏におかれましては何かとご心配をおかけしましたが、事故もなく修復することができました。改めて感謝と御礼申し上げます。

1) 期間

7月9日（実行委員会立ち上げ）～11月4日（修繕作業最終確認）

2) 実行委員会メンバー

氏 名	BN	摘 要
石田 正	611	委員長
猪狩 稔	835	事務局
杉山 裕	705	小屋係
横尾 廣志	728	
諏訪本充弘	751	監 督
小田野義之	775	
高田 昌也	865	
井上 堅一	1064	コーチ
大和久栄治	1105	
加藤 嘉寛	1107	
上原 誠	1115	会 計
川澄 剛史	1216	

3) 関連当事者

- ・明治大学
山荘所有者、スポーツ振興課、管財課
- ・有限会社丹沢
今回の自然木伐採業務請負業者
- ・東武建設株式会社
修繕工事請負業者
- ・手白澤温泉
臨時資材置き場として敷地の一部を借用
- ・林野庁日光森林管理署
奥鬼怒山荘敷地所有者（工事申請許可可）

4) なため会 OB による作業

OB が実施した主な支援作業は、山道の整備、資材の荷揚げ、残材の荷下及び確認作業です。内容及びおおよその投入延日数は以下の通り。

作業内容	延日数
・山道整備	30日
・資材荷揚げ及び残材荷下げ	90日
・確認作業	5日
合 計	125日

【事故発生当時の状況と修繕完了時の比較写真】

事故直後の状況



5) 費用

・東武建設修繕工事費	10,416千円
・資材荷揚げ及び残材荷下費用	2,315
・外壁塗装費用	119
・人件費その他	792
合 計	13,642千円

(特記事項)

当初、修繕費がいくらかかるかわからず、また保険でカバーできる金額も未確定であったため、不足分を OB による寄付を考えていたが、総費用13百万円全額が請負業者である(有)丹沢が付保していた保険で全額カバーされたため、負担をお願いすることなく修繕が終了した。

6) 今後の山荘維持管理について

大学スポーツ振興課、施設管理課によれば、大学側は施設のスリム化を進めている。利用率が低く、経年劣化した施設は廃止する方向であり、奥鬼怒山荘も対象の一つとなっている。奥鬼怒山荘建設以来、現在まで現役、OB の努力と熱意により維持・管理されてきたことに理解を示しつつも、山荘を今後も継続して行くのかどうかの問題提起がなされた。

但し、廃止をする場合、建屋を取り壊し更地にして国に返却する必要がある。原状回復のため、数千万円と見積もられる解体費用をどう調達するかの課題が残っており、現状では正式決定には至っていない。（下記追加報告参照）

【追加報告】

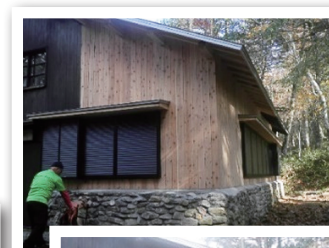
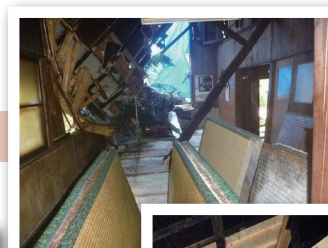
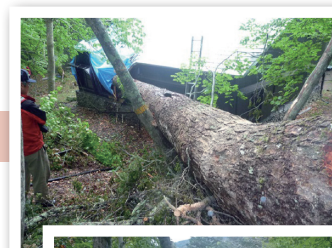
2019年11月23日付け、スポーツ振興事務課増田事務長から高橋部長先生及び諏訪本監督宛て「奥鬼怒山荘の今後の取り扱い」というタイトルで正式な通知が来ています。

通知を要約すると、利用期間は築後60年となる2023年9月30日までとするが、劣化具合等にかんがみ、利用限度日を繰り上げる場合がある。尚、OB 会等から山荘の建物所有権を含む、権利継承の願いがあれば大学として検討する。と記載されています。

とりあえず2023年までは現状通り使用管理できるわけですが、老朽化しているのは事実です。将来的に山荘の存続、維持・管理をどうするか、なため会としての意見集約を図っておく必要があります。

【塗装前と後の写真】

(2019年11月5日現在)

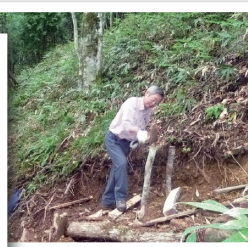
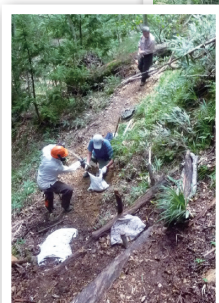


← 塗装前

→ 塗装後

山道整備

塗装前修繕工事完了時



■発電機更新のご報告

小屋の発電機は、2011年のBN¹²³⁴吉澤悠介主将時のワークワンディングの際、海千山千会のご寄付で納入されたガス発電機でした。よく風雪に耐えてきましたが、昨年ごろから調子が悪く、人を見てかかったりからなかつたりと不安定でした。9月21日からのなため会総力をあげた荷揚げの際、初日は丹沢林業の親方でもある前田裕司OBが一発でかけることができたが、二日目は何故かからず、BN⁸⁷¹の平正博プロの力を借りてもうまくいかず、遅れてきた諏訪部OBが何とかする始末。その晩、会計幹事の柳川OBと上原OBより、BN³⁰⁶の高山實OBから何かの時に有用に使ってくれとご寄付をいただいたと報告があり、まさに金額も発電機の購入費にジャストミート。

発電機は台風の影響で千葉方面から品薄との情報もあることなので、決めるなら早い方がいいと



新調された発電機

揚げに従事していた運営委員が急遽臨時運営委員会を開き、再度前回ご寄付いただいた海千山千会の大洞OBにも臨席いただき幹事長は不在でした

が満場一致で新しい発電機を買うこととなりました。

折よくキャタピラーリース社に1台在庫があつて購入となりました。高山先輩本当にありがとうございました。

監督 諏訪本 充弘

■2019年12月奥鬼怒山荘ワーク報告

日程

12月29日～12月31日(2泊)

参加者

OB 7名

705 杉山 751 諏訪本 775 小田野 846 植木
1064 井上 1065 齊藤 2120 鈴木

現役 4名

3年・齋藤、2年・佐藤 佐々木 井上

29日	30日
新しい発電機は起動スムーズ、快調だった。 水源凍結で水が出なかったため新助沢まで水汲み。 損傷したストーブ上照明器具を新品に付替、既存一灯の反射板・管路清掃。 廊下・トイレに常夜灯として足元灯2基を設置。広間の損傷した照明・コンセント回路を接続し直し復旧を行った。	屋根積雪の落ち残っていた部分の雪を下ろした。 小屋内の新補と整理清掃を行った。

昨年6月からご心配おかけしておりました奥鬼怒山荘ですが、おかげさまで修繕され、冬を迎えることができました。



年末の奥鬼怒山荘

皆さまのご協力ご尽力感謝申し上げます。

時間を積み重ねて沁み込んできたものと、これから使い込まれていくであろうまっさらなものが組み合わさる壁の色の濃淡に、ワンダーフォーゲル活動を象徴的に感じております。

コーチ 井上 堅一

〔新執行部紹介〕



梅野 航
(うめの わたる)
主務、1班 SL、装備係チーフ
経営学部経営学科
出身地：東京都
都立小山台高校



小野 剛志
(おの たけし)
主将、2班 SL、衛生・広報係チーフ
政治経済学部経済学科
出身地：神奈川県
浅野高校



桑原 倫太郎
(くわはら りんたろう)
2班 PL、気象・針生係チーフ
理工学部物理学科
出身地：東京都
都立竹早高校



伊藤 悠人
(いとう ゆうと)
1班 PL、装備・衛生係チーフ
農学部食料環境政策学科
出身地：東京都
海城高校



杉本 雪乃
(すぎもと ゆきの)
会計、4班 SL、気象・手白係チーフ
経営学部経営学科
出身地：和歌山県
近畿大学附属和歌山高校



家子 貴暁
(いえこ たかあき)
3班 SL、装備係チーフ
文部文学科
出身地：岩手県
県立水沢高校



岡田 茜
(おかだ あかね)
4班 PL、衛生・手白係チーフ
法学部法律学科
出身地：兵庫県
都立青山高校



小林 亮太
(こばやし りょうた)
3班 PL、編集・手白係チーフ
法学部法律学科
出身地：神奈川県
サレジオ学院高校



手島 寛人
(てしま ひろと)
4班 SL、トレ係チーフ
政治経済学部経済学科
出身地：神奈川県
平塚学園高校



尾島 佐和
(おじま さわ)
3班 SL、針生係チーフ
法学部法律学科
出身地：三重県
桜丘高校

新主将挨拶

主将 小野 剛志

この度、令和2年度体育会主将となりました小野剛志です。ワンダーフォーゲル部が今よりも良い部活になるように一歩一歩前へ進んでいくことができればと思います。

さて、今年度の執行部方針についてですが私たちは三つの方針を決めました。

1 安全登山の徹底

2 メリハリのある部活にする

3 円滑な情報伝達

の三つです。1は毎年の事ではありますが、登山は常に死と隣り合わせであるという事実を忘れないために方針として設定しました。2に関しては近年この部活が体育会であるという事実を忘れがちな雰囲気があります。まず4年が強く意思を提示することで後輩もそれに続いてくれればと思います。最後に3について。SNS全盛となった昨今対面での対話が減っています。部活は人間教育の場でもあるので、自分の思いを相手に正しく伝えることのできる人間を輩出したいという意を込めて方針を設定しました。

主将としてはなれない役職に苦戦する日々が続いています。登山はサッカーや野球のような競技スポーツと違い対戦相手がいらないので部員のモチベーション管理が難しく感じています。魅力的な娯楽がすぐに手に届く場所にある昨今、この部活を第一に据えた学生生

活を送る部員は少なくなっていますが、入部して4年後皆が笑顔で送られる部活を運営していきたいと思います。そのためにもなため会の存在が不可欠だと思います。今日の集まりも、またこの後一年間もどうか我々を温かい目で見守っていただけると嬉しいのです。

リーダー養成随行記

監督 諏訪本 充弘

今年は北海道合宿の影響でリーダー養成は9月3日から8日までいつものコースで行うことになった。後に出てくるようになリユニークなコースをたどったが？

今回の参加者は3年部員全員10名と主将杉井、4年大原、私を加えて13名週間の天気予報もあまりよくなく、会津バスの運転手が言っていた山の一番のご馳走は天気だというのが思い出される。

小生も既に高齢者の仲間入りをしているわけで、1週間ほどのにわかトレでどこまで通用するか不安を抱えながら出発。

9月3日

コースリーダーは尾島、バスを降りたらかなりの大降りの雨で憂鬱な気分になる。いつもの林道をサイト地までロード、尾島 コース分かりやすかった。

コースリーダー以外の感想では何と軍手を忘れたのが3人もいてビックリ、本来軍手は

予備も含めて2組が決まりだが3割の者が忘れるとは驚きであった。もともと軍手は20組が最小単位で販売しているので来年からは共同装備でまとめ買いをしたほうがいいかもしれない。4年の感想は時間を守れ、キビキビ動けというものだった。

9月4日

今日のコースリーダーはクビレまで梅野、クビレから岡田。

定時に出発、少し早かったのでリーダーの杉井にエール講習をやるよう命じたが何やらムニャムニャしただけでなんとなく出発、大滝も何のかんの言いながら通過。沢が分岐するところにある収穫できないコシアブラが何と倒れていて、自然は厳しいな、でも来年は収穫できるな、などと考えているうちクビレ田代に到着。

ここからは岡田、コース中1、2を争う所を女性がやるのか、大丈夫かな？そういえば5年前は鈴木優花がやったな、その時独標1900の中腹から源頭までトラバースしたなどと思いついてから以外に長時間登っているうち山頂で現在地をマネージしたら何と1900の山頂！これより岡田山というところにする。

協議の結果1879へ続く鞍部まで降り、鞍部からの沢地形を折りて山犬田代にトラバースすることに決定。最悪でも源頭まで降りる覚悟で下る。



鞍部からの下りはかなりの劇ヤブでおおよそ標高1760まで降りたところで気象の時間、5人ほど先行させ先に行かせる。トランシーバーの何とありがたいことか。

先行した小林からどうやらサイト地に着いたと連絡を受ける。サイト地はまるでキャンプ場だぞと言ったがそうですとのこと。デントを立てて待っているように伝えて本隊は30分遅れで向かう。

着いてみると確かにミニキャンプ場みたいになっていたが50メートル先にいつものサイト地があり小林の納得。

今年は源頭を通らなかつたがこれはこれで悪くないというのが私の感想。どうもクビレの上田代の沢のところがから入ると1901の稜線に乗りやすくて、そこから入れと言っ

た私の指示がまずかつたようだ。真横からは入れればいいが、ぬかるみが多くて、はまると悪臭がするので、そこを避けたのだが源頭を目指す場合は大いに工夫を要するようである。また、メインの沢以外にも地図にはない沢が複数あり、分かりにくいことはなほだし

い。ただ、今まで気象通報の時間に山犬田代に着いたことはないの、1901(岡田山)を越えるルートも覚悟を決めれば予定コースより早くつける可能性は高く、今後の課題になるものと思い、次年度は3年生の意見を聞いて、コース設定したいと思った。

梅野 10時に田代に着いた、充実した、よかった。

岡田 方向間違えた、反省してる、悔しかった、疲れた。

小野 結果的に着いたのでよかった、明日も頑張る、楽しかった。

家子 沢、方向、マップケース紛失。

伊藤 おかしかったら言うべきだった。

尾島 おかしいと思いつつ言わなかった。

桑原 朝、コンパス紛失、大原に借りた、今日は疲れた。

小林 間違え気づいた。

杉本 コンパスなくした。

手島 体力的、精神的まいった？

梅野 ていねいだつた、岡田がんばった。

9月5日

定刻に出発、鞍部まで小野、孫兵衛まで手島、サイトまで杉本。

今日は特筆すべきこともなく、サイト地には記録的な早い時間に着いた。途中一昨年見落とした金子の木も発見。

サイト地は驚いたことに倒木がずましくテントを張る場所も気を遣わねばならない。また今回は水場までしっかり赤布を付けた。およそ5分たらずで行ける。CLの感想

小野 鞍部で南側にそれる。うまくできた、早めに着けてよかった。

手島 1948からトラバース迷った、大声を出せるようにする。

杉本 ヤブ漕ぎかつてに進む反省、自分もコンパス無くした。

杉井 手島声出してほしい。

9月6日

今日は伊藤、小林。

朝出発の時、伊藤ではない1がスマホを紛失、1時間ほど探したが見当たらず。どうやらキジ打ちに行ったとき紛失したようだ、キジ場付近を入念に探すも出てこないの、あきらめる、電波の届かないところではスマホ類は持っている意味がないので、出さないうに越したことはないと思う。

しかしながら花沼到着9:35 ここで4年



黒岩北峰 後方は燧ヶ岳

大原何を思ったか湿原で田植えダンス？小野なども加わってIを慰める。

Iの感想 花沼田植えありがとう。

途中いつもの黒岩北峰で記念撮影、黒岩北峰に行くところで少し道を間違えたが分水嶺まで予定通り到着。

9月7日

今日は家子、桑原

とりたてて言うこともなくコザ池沢に到着沢に降りるところが悪くそこだけは注意が必要だ。出会いで昼食。ここで大原、またもや小林、家子を誘って水泳。元気なものだ。

今年はOBワークで手白小屋が損壊したため加仁湯の社長の好意で加仁湯旧館の春日野部屋合宿所を出迎える場所に貸していただいた。本当にありがたいことでした。この合宿所は加仁湯が改装する前に本館として使っていたもので、外から見ると昔むして古いイメージだが、中は立派でこんないいところにただ泊まっていいいのか？というくらいで、社長のご厚意には只々感謝するばかりでありました。また、下駄箱を見ると巨大なスニーカーがずらりと入っていてびっくり。尚後日のワークワンデリングの際、人手不足の為敷布団を一枚にした関係であまったマットレス、敷布団など、15組ほどいただいて小屋に持ち込んだのを補記しておきます。小田野OBが二階の個室が空になるほど、思い切った燃やしたことが、本当に良かったとおもいます。

風呂から上がって15:30最後のミーティング

家子 赤布あった。協力してくれてありがとう、全体としては特に気合は入れてなかったけど、もうちょつとできたかな？力を出し惜しみしました。

桑原 早くつけてよかった。CL頑張った、全体としてよかった。

伊藤 今日いいペースだった。全体としてトラバース(二日目)気分よりよかった。

ホッとしている、もって積極的にすればよかった。丸正より歩けた。

梅野 天気に恵まれよかった。楽しめた。努力してリーダーになりたい。

岡田 地形よく見て動けた。全体としてCMもう少しく見てきた。岡田山作った。

尾島 同期と水準まで頑張る。

小野 水浴びよくした。花沼よかった。トラバースきつかった。地図読みはいいが道を見つけるのはいまいち。

小林 今日よかった。CL運がなかった。

杉本 すこし余裕があった。全体として足りないものが分かった、気象予報難しかった。

手島 CL指示だしマネージ初日から精神的に良くなかった。

大原 何もせずついて行くのが楽しかった。

リーダーに際して技術面ではOK、精神面を出してほしい。いい執行部になれると思う。楽しかった。

杉井 家子CM時間？桑原話すときははなす。全体としてレベル高かった。来年もいいパーティ作ってほしい。ドラフト会議頑張ってくれ。

諏訪本

今年もそれなりに天気に恵まれいいリーダー養成ができたと思う。一年間しっかり同期で結束してやってくれ。

2020年度現役指導スタッフ紹介

●部長：高橋 信勝

●監督：諏訪本充弘 (75)

●コーチ：井上 堅一 (106) 岩田 卓也 (265)

浜口小百合 (127) 諏訪部貴亮 (128)

由水 雅也 (130)

現役部員数

準OB	11名 (男10名 女1名)
4年	10名 (男7名 女3名)
3年	9名 (男8名 女1名)
2年	17名 (男14名 女3名)
合計	47名

年間行事予定

2019年 10月 ワーク合宿 (済)

11月 秋合宿 (済)

2020年 2月 スキー合宿

3月 春合宿

4月 新人歓迎W

5月 新人養成W

7月 初夏W

8月 夏合宿 (東北地方)

9月 正部員養成W リーダー養成W

■主務連絡先

梅野 航 0800-2072-11086

zwangeru@gmail.com

■山小屋を利用したい方へ

左記の現役小屋係まで連絡願います。

○奥鬼怒山荘 (手白小屋)

小林 亮太 0900-4011-7121
ryoutagyuu@icloud.com

○針生山荘 (針生小屋)

尾島 佐和 0900-8189-2361
ojima0710@gmail.com

■会員情報の連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、下記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当者までご連絡願います。

総務部アドレス：soumu@natamekai.org

ファックス：03-55539-4245

小田野 義之 (775)

住所：〒343-0021 埼玉県越谷市大林428-14
電話：0900-2439-13463
メール：yy88dodano@docomo.ne.jp

2019年度卒業生歓迎会

日時：2020年2月29日 (土)

12:30~15:00 受付開始：12:00

会場：アカデミーコモンA5A6会議室 (地図参照)

会費：4,000円

現役実行係：

尾島 佐和 0900-8189-2361
ojima0710@gmail.com手島 寛人 0900-9230-1870
t-handxxhio.1113@outlook.jp

■投稿募集のご案内

日頃ご愛読いただき、誠にありがとうございます。薫風では幅広い世代の皆様から投稿を募集しています。

【テーマは問いません】

山やワンデルングにまつわるお話などに囚われず、皆様の身近な話題や趣味のお話から、野球、ラグビー、駅伝といったスポーツなどへの思い入れなど、何でも構いませんので、どしどしご投稿願います。

【投稿のスタイルも問いません】

紙面の都合がありますので、文章であれば原稿用紙3枚程度にまとめていただくと助かります。また、一部のページをカラー化しており、例えばインスタグラムのような写真がメインとなるご投稿でも構いません。お写真に簡単なコメントを付けていただいても大歓迎ですので、よろしく願います。

【広告も募集しています】

現在は同期会の協賛広告や自営業の方のPR広告などにご利用いただいておりますが、例えば地

1 段 10,000円	
3 段 20,000円	2 段 15,000円

方在住で観光業に携わっている方や、通信販売でご商売をされている方からの販促広告なども掲載させていただきます。と存じます。

【応募先について】

次号（第61号）掲載分

締切：6月30日（火）

送付先：巻末に記載の各編集委員または左記担当者

BN 879 井上 稔也

住所：〒176-0022 東京都練馬区向山4-12-16

電話：070-5466-1521

メール：maromaro.marom8@gmail.com

※Faxでの送付をご希望の方は送信先をお知らせしますので、右記電話またはメールにご一報ください。ショートメールでもOKです。

計 報

BNBN 319368 荻原碩純OBがご逝去されました。

BN 319368 最上常四郎OBが2019年6月22

にご逝去されました。

BN 702 木本裕幸OBが2019年8月7日

にご逝去されました。

BN 367 阿部瑛二OBが2019年9月21日

にご逝去されました。

BN 539 小島政男OBが2019年10月13日

にご逝去されました。

BN 716 篠 吉重OBが2019年11月13日

にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

「編集後記」

BN 915 日暮 浩美

私事で恐縮ですが、今年還暦を迎えます。大学を卒業して、この春ではや三十七年。職業柄、不摂生を重ねても無事に社会人としての日々を送れているのは、現役時代に鍛えた気力と体力のおかげでしょう。もっとも、その貯金も底を尽きかけている気がします。

昨年の秋に新執行部が発足しました。元号が令和に代わって初の執行部です。大げさかもしれませんが、MWVの歴史に名を刻みます。伝統あるMWVのバトンを令和の世も、しっかりとつないでほしいものです。

それにしても、昭和のワンダラーの目には現役諸氏の姿がまぶしく映ります。若いっていいなと、あらためて思います。将来がまだまだ開けているわけですから。人生引き算に差し掛かった身に若さのお裾分けがほしい。

発行日 二〇二〇年一月

編集 一色雅男 石井克太 住田孔一

猪狩 稔 加藤章一 井上稔也

日暮浩美

発行者 明治大学体育会

ワンダーフォーゲル部なため会

印刷所 三協印刷株式会社